2008. 6. 30

The Japan Academy of Midwifery Newsletter No.56

日本助産学会ニュースレター

発行所　日本助産学会
〒111-0054
東京都台東区鳥越２－12－2
日本助産師会館３階
電話・FAX　03－3866－3032
e-mail：jam1987@ninus.ocn.ne.jp
代表者　堀内成子

巻頭言

第23回日本助産学会学術集会開催のご案内

第23回日本助産学会学術集会長　恵美須　文　枝

第23回日本助産学会学術集会は、2009年３月21日（土）、22日（日）にタワーホール船堀（東京）で開催することとなりました。

今年度、助産師は、いくつもの大きな課題に直面しています。産科医不足による出産施設の閉鎖が全国的に蔓延し、妊産婦が身近な出産施設を確保できないばかりか、そこで働いていた助産師にも専門性の発揮が危うくなってきています。更に、地域の開業助産師には、この度開始された医療法第19条による連携医療機関を持つことが困難な地区もあると言われています。助産院で出産する妊産婦が次回からの健診を医師から断られたという話や今回開始となった妊婦健診の無料券を助産院では使えない自治体が数多く存在する等、助産師と妊産婦にとって厳しい時代です。助産教育においても、今回のカリキュラム改正によって４年間の大学教育の中に助産師教育を組み込むことが困難な大学が出てきています。大学専攻科や大学院での教育に切り替えるにしても、教員の数が制限される中でどのような工夫ができるか、教育関係者にも頭の痛い課題です。一方、社会からは看護専門職に対する実践技術の向上が求められ、助産師には処方権の拡大や会陰縫合等の医療処置に関する検討が進められようとしています。本学会は、学術的な立場からこれらの状況に対応すべき使命を担っています。そこで今回の学術集会では、この度文部科学大臣から助産専門職大学院の認証評価機関として認証されたNPO法人日本助産評価機構の活動を紹介し、これからの助産ケアの質を保証する教育のあり方と施設及び地域助産師の協働の絆を強め、一層、国民から信頼されるケアの質保証について考えることにしたいと思います。主なプログラムでは、産科医療の無過失保証制度に詳しい岡井崇先生に、その現状や産科医療の特殊性を語って頂き、また、医療現場の法律問題に関する講演を企画したいと思っています。更に、これからの社会における助産師の働き方をご提案いただく日野原重明先生をお迎えして、新たな活路を見出したいと考えています。ジャズシンガーの綾戸智恵氏には、特別講演として女性の生き方や助産師の役割についてメッセージをいただく予定です。また、前回に引き続き、助産技術の向上を図るプレコングレスも開催いたします。助産師の現状を的確に見据え、真の助産師（賢い女性）として、その役割を果たせるよう仲間の絆と女性の信頼を獲得できる手がかりを掴んで頂けますよう、企画委員一同、多数の皆様の参加をお待ちします。

平成20年５月吉日

第22回日本助産学会総会報告

庶務担当理事　砥　石　和　子

日　時：平成20年３月15日（土）12時00分～13時00分
会　場：神戸市国際会議場１階メインホール
出席者：82名
開　会：堀内成子理事長あいさつ
議　事：毛利多恵子第22回学術集会長が議長となり、プログラムにそって議事が進行された。

《報告事項》

◎理事会および評議員会報告

堀内成子理事長から、通常理事会を６回開催したこと、その活動内容について【総会要綱p.２～５】にそって報告された。

評議員会において【総会要綱p.６】、理事会内容が承認されたことが報告された。

◎平成19年度事業報告

宮中文子庶務担当理事から庶務報告、以降平澤美恵子副理事長から【総会要綱p.11～14】にそって一括報告された。

◎平成19年度収支決算報告

髙田昌代会計担当理事から【総会要綱p.17～18】にそって、一般会計、特別会計について報告された。

◎監査報告

浅生慶子監事から、収支決算について監査を執行した結果、適当であった旨報告された。

◎第22回学術集会準備状況

毛利多恵子第22回学術集会長より【総会要綱p.15-16】にそって、学術集会準備経過報告がされた。

《表彰》

◎第２回日本助産学会表彰

功労賞：三井政子氏、　学術賞：松崎政代氏

《審議事項》

◎平成20年度事業計画案

堀内成子理事長より、【総会要綱p.19】にそって次年度の10項目の事業計画が説明された。

裁量権拡大に関する委員会を立ち上げるのかという質問があった。堀内成子理事長より、スキルアップ研修も含め系統的に展開していきたい、委員会立ち上げに関しては新理事会で検討すると回答があり、賛成多数で承認された。

◎平成20年度収支予算案

髙田昌代会計担当理事から【総会要綱p.21-22】にそって平成20年度収支予算案が説明され、賛成多数で承認された。

◎会則改正案

堀内成子理事長から【総会要綱p.20】にそって会則改正案が説明され、賛成多数で承認された。

◎次々期（第24回）学術集会会長選出

堀内成子理事長から、評議員会で次々期（第24回）日本助産学会学術集会会長として加納尚美氏（茨城県立医療大学）が選出された旨の報告があり、賛成多数で承認された。

《次期学術集会会長あいさつ》

第23回学術集会会長恵美須文枝氏（首都大学東京　健康福祉学部　看護学科）から挨拶があった。第23回学術集会は、平成21年３月21日（土）・22日（日）、タワーホール船堀（東京都）にて開催されることが紹介された。

閉　会　平澤美恵子副理事長あいさつ

神戸第22回日本助産学会学術集会報告とお礼

第22回日本助産学会学術集会長　毛　利　多恵子

「誕生－よりそう助産師の存在－」というテーマで天候にも恵まれ学術集会始まって以来の1259名（事前登録592名+当日参加667名）の参加者を迎え成功裡に終えることができました。参加者の約半数が非学会員と学生の方で学会の門戸の広さと将来を感じました。皆様のご参加・ご協力に心より感謝申し上げます。
学術集会の様子を報告させていただきます。

第１日目　３月15日

朝から参加される方が多く集録集などが一部不足しメインホールと中継ホールも満席となり会場が狭かったことなど、この場をかりてお詫び申し上げます。

開会式はイルカ作詞作曲の鈴の音をBGMに「誕生」スライドショーで始まりました。招聘講演の鈴木秀子先生からは淡路・阪神大震災のお話しとふるさとの大合唱、特別講演の脳科学者茂木健一郎先生からは最新の脳科学の視点で幅広いさまざまな出来事と「いのち」「生命力」「生き方」がつながる興味深いお話でした。鈴木先生と茂木先生はこの学会がご縁でおふたりの対談集が誕生の予定です。

シンポジウム「助産師誕生への教育という陣痛－実践家を育てるために-」では卒業生たちも参加し受けた助産教育の意見がかわされました。懇親会では132名の参加登録があり神戸の夜景と交流を楽しんでいただきました。

シンポジウム
助産師誕生への教育という陣痛
－実践家を育てるために

第２日目　３月16日

会員の研究発表は、口演51題ポスター発表91題合計142題でした。「災害と女性」「妊娠と糖尿病」「よりよい助産学会論文掲載をめざして」の交流集会はどこも満席となりました。ポスター会場では活発な質疑応答が行われました。市民県民も参加できる公開教育講演は児童精神科医　佐々木正美先生による「思春期へのまなざし」でした。長年の臨床経験から乳幼児期から青年期までの特徴を説明され思春期にある人と希望を捨てないでコミュニケーションをし続ける必要性を話されました。公開フォーラム「助産師が行ういのちと性の教育」でも会場との活発な意見交換がされました。閉会式も多くの方が参加されました。６テーマのランチョンセミナー、43社の企業展示、19の自主グループ展示もされました。

特別講演　茂木健一郎氏

プレコングレス　３月14日

新しい試みとして実践的な助産技術向上を目指したワークショップを２種類と会員が自由に企画運営する自由集会を実施しました。日本周産期・新生児医学会公認コースでもある新生児蘇生法には37名、女性にやさしい会陰縫合術には54名が参加され好評でした。４つの自由集会「世界の出産現場からみえたこと」「助産と国際協力」「守ろう女性の乳房」「女性を中心としたお産に関するマタニティ政策を考えよう」に74名の方が参加され会員相互の交流が深まる機会となりました。

満席のメインホール
ふるさと合唱

平成20年度日本助産学会学術賞、日本助産学会奨励賞候補者の自薦又は推薦の公募

表彰関連選考委員会　平　澤　美恵子

日本助産学会では本会会則第４条３項に則り、平成18年度から本学会の発展に貢献、あるいは学術領域において優れた業績があったと認められる学会員の表彰を行っております。学会賞として次の表彰に該当されると思われる方は是非ご推薦下さい。

学会賞の種類及び資格、審査対象

１．日本助産学会学術賞（以下学術賞）

資　　格：日本助産学会の5年以上の会員であること。

審査対象：助産学に関する一連の研究に対し３篇以上の原著論文を有し、かつこの中の１篇以上は、推薦年度を含む過去３年間に日本助産学会誌に発表していること。

２．日本助産学会奨励賞（以下奨励賞）

資　　格：日本助産学会の3年以上の会員であること。
助産実践者として活動歴が10年以上あり、助産実践の向上や開発に貢献していること。

審査対象：応募年度を含む過去３年間に本学会で発表した助産実践者で、助産実践の向上や技術開発への貢献を認められる者。

公募について

学術賞及び奨励賞は、会則第4条2項に定める受賞資格を有する者の自薦、または本会会員の推薦とする。

受賞数

上記各賞とも若干名

募集方法

各応募申請書及び申請書フォーマットは、日本助産学会ホームページに提示する。

推薦応募書類

〈学術賞〉

①応募申請書（様式１）７通
②業績の概要（200字以内）（様式２）７通
③申請論文３篇の別冊またはコピー　７通
④共著の場合は共著他者の同意書　　７通（様式自由）
⑤推薦書：他薦の場合のみ必要（様式３）７通

〈奨励賞〉

①応募申請書（様式１）７通
②業績の概要（200字以内）（様式２）７通
③本学会で発表した抄録又は論文１編の別冊またはコピー　７通
④推薦書：他薦の場合のみ必要（様式３）７通

推薦応募締め切り

平成20年９月末日

各賞候補者の推薦応募は上記の書類を添えて日本助産学会事務局に「推薦書類」と朱書きにして送付してください。

2009年度　日本助産学会　研究助成公募

学術振興委員会理事　江　藤　宏　美

応募締切日：2008年11月10日（月）必着

日本助産学会では、本学会の会則に基づき、助産学に関する研究を推進するために研究費用の一部を助成し、助産学の発展をはかり、わが国の母子保健に寄与することを目的に研究助成を行っております。

2009年度の研究助成応募は、以下の要領にしたがって申請して下さい。

応募資格

＊日本助産学会員として3年以上加入している会員であること

＊共同研究者も会員であること（加入年数は問わない）

応募方法

日本助産学会ホームページ（http://square.umin.ac.jp/jam/）、「研究助成案内」から【申請書】をダウンロードし、必要事項を記入し、事務局まで送付してください。

研究課題

下記、委託研究と学術奨励研究について、それぞれ２件程度採択します。

１）委託研究

本学会が推進協力団体として登録している「健やか親子21」より課題１・２＊に関連した研究、また、時代や社会の要請度・緊急度が高く、研究成果の社会的・学術的意義が大きい研究等。

＊課題１「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」

課題２「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」

助成額は、50万円以内／１件。

２）学術奨励研究

助産学の発展、助産実践の改善と開発、その他母子保健領域の学術的研究等。

助成額は、30万円以内／１件。

応募締切日

2008年11月10日（月）必着

問合せ先

日本助産学会事務局

〒111-0054　東京都台東区鳥越２-12-２　日本助産師会館３階

Fax. 03-3866-3032

E-mail：jam1987@ninus.ocn.ne.jp

詳細は、日本助産学会ホームページをご覧下さい。

多数の応募をお待ちしています！

国際委員会報告

国際委員会　小黒道子

1．国際助産師の日－2008年5月5日

ICMは、毎年5月5日の国際助産師の日に声明を発表しますが、今年は以下の内容でした。

家族の健康は未来への鍵

女性と赤ちゃんへの助産ケアは、現在および次の世代の健全な成長と安寧を促進する家族とコミュニティへの投資である

国際助産師連盟（以下、ICMとする）は今年、第28回3年毎大会を、'助産：世界的な女性と新生児へのコミットメント'のテーマで開催する[1]（訳注：原文は5月5日に発表された）。今年は、世界保健機関（WHO）も創立60周年とアルマ・アタ宣言におけるプライマリ・ヘルス・ケア30周年を同時に祝する。WHOのマーガレット・チャン事務局長は、その目的を、World Health Report2008で保健システム強化におけるプライマリ・ヘルス・ケアとその役割に焦点を当てること、と述べる[2]。

アルマ・アタ宣言[3]ではプライマリ・ヘルス・ケアを、'欠くことのできない保健活動であり…地域社会の全ての個人や家族の全面的な参加があってはじめて広く享受できうるものとなる…国家保健システムと個人、家族、地域社会とが最初に接するレベルであって、人々が生活し労働する場所になるべく近接して保健サービスを提供する、継続的な保健活動の過程の第一段階を構成する…少なくとも次のものを含む：主要な保健問題とその予防・対策に関する教育、適切な栄養、安全な水の十分な供給、家族計画を含む母子保健；…［そしてそれは］地域や後方支援レベルにおいて、ヘルス・ワーカー、すなわち医師、看護師、助産師、補助要員、そしてコミュニティ・ワーカーたちの力を必要とする。'

助産師が家族にコミットすることは、保健システムおよび支援的環境が機能する範囲内においてプライマリ・ヘルス・ケアの中核的要素である。助産ケアはそのやり方においてユニークであり、新たに親になる人々への身体的な健康、自信、そして肯定的な出産体験から生じる自己効力感の提供を通じ、また授乳支援や栄養学的教育を通じ、さらには家族計画および産間調節への援助や女性が自身の体への知識を深めることを通じて、次世代の健康に影響を与えうるのである。

ICMは、会員である世界93の助産師団体の技術と強みをよりどころとする組織である。我々はこれらの組織内における個々の助産師らの努力や、彼らが仕事を描写するのに用いる比喩的表現からインスピレーションを得ている。アフガニスタン助産師協会は昨年、この国際助産師の日に合わせすばらしいポスターを作製し、助産師を'アフガニスタンの家族に健康と平和をもたらす'象徴とした；またハイチのKatherine Goulliartは、'助産師の思い'として次のように述べた：'毎日自分の手を眺める。そうすることで、ひとりのある女性からまた別の女性へ、ひとりの女性からその家族へ、そしてひとりの女性からとりまく社会へ、より健康な妊娠生活や安全な出産にとって最善の方法のために、今もこれからもその手を使うことができ、そうすることを忘れないようにするのだ'。このように助産師の仕事は、世界のどこにいても、家族とコミュニティ内のより良い健康とより強固な組織の構築を促進することである。

国際助産師の日は、毎年助産師の仕事と助産の専門性を祝する機会を提供する：今年は特に、家族とその次世代に焦点をあてる：

助産師はより健康的な家族の形成を支援する－未来への鍵を握るのは、助産師である。

出典
1. International Confederation of Midwives. 28th Triennial Congress. Glasgow June 1-5, 2008. www.midwives2008.org/home.htm
2. World Health Organization. 120th WHO Executive Board session. 22 January 2007. Address by Dr Margaret Chan, Director-General of the World Health Organization. www.who.int/dg/speeches/2007/eb120_opening/en/index.html
3. World Health Organization. Declaration of Alma-Ata. International Conference on Primary Health Care, Alma-Ata, USSR, 6-12 September 1978. www.who.int/hpr/NPH/docs/declaration_almaata.pdf

第28回国際助産師連盟（ICM）評議会・大会報告

国際委員会理事　加　納　尚　美

1．ICM評議会

第28回国際助産師連盟（ICM）に先立つ評議委員会がグラスゴーで５月28－31日４日間、開催されました。本学会からは、理事長および国際委員会担当理事の２名が評議会に出席し、江藤理事と藤井会員がオブザーバーとして評議会に出席しました。

65カ国から75グループ、115人の評議員、オブザーバー、理事、事務局、運営委員、通訳（英語、スペイン語、フランス語）、機器取扱い技術者等総勢200名近くが集まりました。最終的には138人の評議員がそろいました。

議事内容、決定事項は学会誌に報告しますが、主な内容は以下です。

ICM会計が健全な方向性に向かっていること。理事、地域理事の改選があり、理事長がオーストラリアのジュディ・ブラウンからカナダのブリジッド・リンチ氏（これまで副理事長）に交代されることになります。私たちの属するアジア・太平洋地域代表理事には、ニュージーランドのカレン・ギリランド氏が続投、近藤潤子氏（日本助産師会）から香港のシルビア・ファングに交代になりました。また、３年後の南アフリカ大会の中間で開催されるアジア・太平洋地域会議は、インドで開催されることになりました。日程と場所、内容は後日広報することになります。

今回の主要議題は、今後のICM展望と使命についてですが、外部コンサルテーションの専門家から講義と評価を受けてから内容や文言が検討されました。その結果随分と簡潔明瞭なものになりました。これらは正式文書がきた時点で学会誌にご紹介いたします。その他、各加盟団体から提案された多くの所信声明も検討され承認されました。

国際的な助産活動を称えて贈られるマリ・グブラン賞は、ハイチのフランコエル氏に決まりましたが、大変残念なことに、ICM大会直前に交通事故死されたことが報告され、全員で黙祷をしました。授賞式にはお嬢様が代理でご出席されました。他、ICMの活動に尽力している南アフリカの助産師をはじめ５名が若手リーダーとして表彰されることになりました。

評議会会場

2014年開催国は接戦のため2度の投票により、チェコ共和国に決定しました。カナダのトロントとは僅差（2.8%）でした。双方協力し合い６年後を準備しようということになりました。他、ICMロゴがこちらの投票により変わることになります。

２．ICM大会

「女性と新生児に世界規模で関わる助産」をメインテーマとした第28回の学術大会は、６月１日の開会式から６月５日の閉会式まで、グラスゴー市で開催されました。ICMがスコットランドで開催されたのは初めてだということです。世界中から3000人の助産師がグラスゴー市国際会議場に集まりました。

研究発表、ワークショップ、講演会はあちこち満員でした。開会式もさることながら２日目の講演会には、インドでの安全な母性への活動報告、ロイヤルファミリーの講演で、助産師が世界の母と子の健康を担う役割、実績にも言及され、会場は拍手に沸きました。

日本からは200名近い参加があり、研究発表も数多く（ポスターが多い）出されていました。私自身は、12年ぶりの学術大会の参加でしたが、次回、口演にも日本からどんどん挑戦していってほしいという声も他から聞かれました。

閉会式では、今回の大会全体のハイライト場面のビデオ放映、今大会会長カーリン・デイビス氏の挨拶、新任理事紹介、旧理事への謝辞がありました。次に、アフリカ地域で初めてICMが主催される南アフリカ、ダーバン大会会長ノナチザーン氏から開催予告（2011年６月20－23日）がありました。途中アフリカ出身の助産師たちが壇上ですばらしい歌声を響かせ会場中を熱くさせてくれました。最後の挨拶で、新理事長は、新しいICM展望と方向性を雄弁にかつ満遍なく語ってくれました。「世界の助産師、一緒に手を取り合って行こう、母と子と、地球と国と個々の地域に生きるすべてのためにと…」会場は話の折々に拍手の波が立っていました。お互いに力を分かち合い、各々の現場に新たに旅立つ、そんな瞬間でした。

＊＊＊ICM募金のお願い＊＊＊

本学会では下記の募金を受付けています。会員の皆様のご協力をお待ちしています。

＊ICMスポンサー・ア・ミッドワイフ（国際基金）の募金について
発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。一口2,000円です。

振替口座番号：００１９０－８－７１０９３１
加 入 者 名：日本助産学会国際基金

＊セーフマザーフッド基金の募金について
世界で妊婦死亡率および罹病率が最も高い地域における助産の知識の発展を支援するための募金です。一口1,000円です。

振替口座番号：００２４０－８－６８１８
加 入 者 名：日本助産学会ICMセーフマザーフッド基金

今回は第22回日本助産学会学術集会会場にて、江藤宏美、小田切房子、加藤尚美、加納尚美、島田啓子、竹内美恵子、平澤美恵子、蛭田由美、堀内成子、正岡経子、松岡知子、丸山知子、宮中文子、村上睦子、毛利多恵子（敬称略）の皆様より募金にご協力いただき、ありがとうございました。

引き続き　皆様の暖かいご支援とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

第23回　日本助産学会学術集会プログラム

テーマ　助産の質保証　－信頼と絆－

第23回日本助産学会学術集会事務局長　安　達　久美子

会　　期：2009年3月21日（土）～22日（日）
会　　場：タワーホール船堀　〒134-0091 東京都江戸川区船堀 4-1-1
会　　長：恵美須文枝（母子保健研修センター助産師学校教務主任・日本助産評価機構理事長・首都大学東京名誉教授）
大会URL：http://jam2009.umin.jp/

プログラム〔予定〕

講　演　　日野原重明（聖路加国際病院　名誉院長）
　　岡井　　崇（昭和大学医学部　教授）
　　綾戸　智恵（ジャズシンガー）

シンポジウム　　ワークショップ　　スポンサードセミナー　　一般演題（口演・ポスター）
自由集会　　企業展示

参加登録

学術集会登録費		事前登録（平成20年８月１日(金)から21年１月30日まで）	当日登録
登録費	会　員	10,000円	12,000円
	非会員（専門職）	11,000円	15,000円
	非会員（専門職以外）	－	5,000円
	学　生（大学院生を除く）	4,000円	5,000円
懇親会（会場：タワーホール船堀２階　瑞雲）	会員・非会員・学生	7,000円	－

＊登録方法詳細につきましては、第23回学術集会ホームページをご参照ください。

演題登録

登録開始：平成20年８月１日　　登録締め切り：平成20年９月８日（必着）
＊詳細につきましては、上記第23回学術集会ホームページをご参照ください。

学術集会問い合わせ先

第23回 日本助産学会学術集会運営事務局　株式会社ICSコンベンションデザイン内
〒101-8449 東京都千代田区神田錦町3-24　住友商事神保町ビル
電話：03-3219-3541　　FAX：03-3292-1811　　E-mail：jam23@ics-inc.co.jp

事務局からのお知らせ

平成20年度会費（10,000円）納入について

当学会は皆様の会費で運営されています。会費の納入を３月末までの年度前払いでお願いしています。

一部の方が今年度会費未納です。未納の方は早急に、郵便振込（郵便局備え付けの振込用紙）でお振込下さい。

口座記号番号：００１００－５－８３２４４
加 入 者 名：日本助産学会

変更届および退会届について

住所・姓・所属先・送付先の変更や退会希望の場合は、FAX・はがき・E-mail添付等で変更・退会届を必ずご提出願います。

書式は問いませんが、変更届（または退会届）と表示し会員№と氏名を明記した上で変更内容（または退会希望年度）を記入してください。日本助産学会ホームページ（http://square.umin.ac.jp/jam/）から変更・退会届の書式をダウンロードしてのご利用も可能です。

＊退会についてのご注意

・次年度（平成21年度）から退会希望の方は、必ず１月末までに退会をお知らせ下さい。
ご連絡がない場合は会員継続とみなし年会費をお納めいただくことになります。
口座引落ご利用の方は、引き落とし解約手続きに時間がかかりますので退会についてはお早めにご連絡下さい。
１月末までに退会連絡がないまま引き落とされた会費につきましては、会則第７条（三）にありますようにお返しできません。十分にご理解いただきご協力の程よろしくお願い致します。

＊変更について

・住所・姓・所属先・送付先の変更があった場合はその都度必ずお早めにお知らせ下さい。
変更後の連絡がないと、当学会からの緒情報をお届けすることができません。
・口座引落ご利用の方で口座変更（姓変更（名義人名変更）・口座番号変更・取引金融機関変更等）の場合は、再登録するか現登録データ削除の必要がありますので必ず１月末までにご連絡下さい。（連絡がないとデータを削除できず取引なしエラーになり手数料（助産学会負担）だけが引かれてしまいますので必ずお知らせ下さい）

学会誌バックナンバー無料化と書籍販売のお知らせ

＊日本助産学会誌バックナンバー第１～16巻を無料、第17～20巻を有料（１部2,500円）で配布しています。
＊「日本助産学会委託研究・学術奨励金助成研究報告書（第３号）」　１部500円
＊「母子に優しいケアを実現するために－口演集－」　１部100円
＊講演会「女性とともにつくるお産と政策」ニュージーランド助産システム　１部1,000円

それぞれ送料分は申込者負担です。在庫に限りがありますのでご希望に添えない場合はご容赦願います。

申込み方法は、日本助産学会ホームページ（http://square.umin.ac.jp/jam/）から申込書をダウンロードしてFAX（03-3866-3032）か、E-mail（jam1987@ninus.ocn.ne.jp）に添付送信してください。

《連絡先》 日本助産学会事務局
〒111-0054　東京都台東区鳥越２-12-２　日本助産師会館３階
Tel＆Fax：03-3866-3032
E-mail：jam1987@ninus.ocn.ne.jp
http://square.umin.ac.jp/jam/

円滑な事業推進にご協力下さいますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。